

VOL.132

農協からのお便り

3
2019

グリーン
Green
地域と農業をむすぶJA広報誌

今月の表紙

雪の中でのハウス準備
今年の豊作に期待の笑顔…

Topics

- ・特集 農協の挑戦～
- ・女性部合同宿泊研修を開催
- ・愛別町農業青色申告会
第40回定期総会を開催

他

岸田農園(株)
(東雲地区)



Q 監事に就任され 10 ヶ月が経ちましたが今のお気持ちをお聞かせください？

A まだまだ、分からない事ばかりで先輩監事、理事たちに迷惑をかけています。いろいろ教えていただき、勉強中です。

Q 木村常務のインタビューで役職員の意識改革やマンネリ化について「組合員や住民目線に立った自己点検を実施…」とお話がありましたが、何か気づいた事があれば教えてください。

A 経営環境が厳しくなればなるほど、組合長を中心に役職員とともにコミュニケーションを図り、正・准組合員のために乗り越えていかなければならない。

Q あなたが思う J A のあるべき姿をお聞かせください？

A 利用者にはいつも優しく笑顔での接客対応をしてほしい。

Q 若い農業者や農業後継者に期待する事を教えてください？

A 今だから（若者）思い切って出来ると思う、夢を持って挑戦してください。

Q あなたのプライベートで、今一番楽しみにしている事を一つ教えてください。

A 遅めにデビューしたゴルフです。今はゴルフ人生無しでは考えられません。ゴルフを通じていろんな方々と出会って得たことはたくさんあります。感謝してます。おかげさまで健康です。

「〇〇の挑戦～」として農業者・役職員などを紹介しています。

特集

～農協の挑戦～

監 事

川 崎 進

おたずねします。

今、農協が変わらなければいけない事は？

挑戦しなければいけない事は？



昭和27年7月6日生まれ（満66歳）

S27 愛別町愛山町に生まれる

S46 上川高等学校卒業

S48 愛別町役場奉職

H25 愛別町役場退職

H25 愛別町社会福祉協議会事務局

H29 愛別町農業委員

H30 JA上川中央員外監事

趣味 ゴルフ・旅行



楽しく歌って飲んで カ～モンバイビー女性部…

2/4～2/5

愛別支部・上川支部合同宿泊研修を開催 JA女性部

森の湯花神楽（東神楽）において、JA女性部支部合同宿泊研修が総勢30名の参加を頂き開催しました。

研修では、パラリンピックの正式種目になっている「ボッチャ」の競技体験を館内のホールで行いました。

スポーツ交流のレクリエーションとして注目されている競技で楽しく汗をかくことができました。

宴会での交流会では、カラオケ大会やビンゴゲーム大会などを行い、終始笑いのたえない時間を共に過ごしました。



NOSA I道央主催のふれあいスポーツ大会…

1/22

第15回レディースボウリング大会に参加 JA女性部



NOSA I道央主催の第15回レディースボウリング大会が高砂台ボウリング倶楽部（旭川市）で開催され、当女性部からも10名が参加しました。

NOSA I管内の女性部員が集まった大会は、好プレーに歓声が上がリ、和気あいあいとNOSA Iの輪が広がる交流となりました。

団体の部では愛別支部チームが見事に優勝、個人の部では柴田美代さん（伏古地区）が準優勝・沼田志富美さん（愛別地区）が4位に輝きました。上川支部チームも健闘しましたが、惜しくも入賞とはなりませんでした。

愛別町農業青色申告会が創立40周年!!

2/12

第40回 定期総会を開催 青色申告会

愛別町農業青色申告会（会長 久米啓一）の第40回定期総会が農協本所3階大会議室で開催されました。

総会は、久米会長の挨拶に続き来賓の当JA野口組合長より祝辞を頂いた後、平成30年度事業経過報告・収支決算報告並びに平成31年度事業計画・収支計画などを審議し原案通り承認されました。また、任期満了に伴う代議員の改選も行われました。

今年には当会設立40周年を記念して、会員全員に記念品が配られました。総会終了後は懇親会が開催され、和やかな雰囲気の中で終了致しました。



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的に伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会



JAグループ北海道は、児童養護施設からの卒業を控えた高校生を対象とした調理実習体験「おとなの食育」を札幌市内で開催しました。

この取り組みは、自立支援活動として、JAグループ北海道と興正子ども家庭支援センターが共催しており、今回で6回目の開催となります。高校卒業後、一人暮らしを始める生徒が多く、施設から巣立った後も栄養バランスを考えた食生活を送ってもらい、健康に過ごしてほしいという趣旨で実施しています。高校生10名が参加し、身体に必要な栄養素や食材の消費・賞味期限など食の知識について学んだ後は、調理実習に挑戦。グループに分かれて役割分担をし、協力して楽しく料理する姿が見られました。



JA北海道信連



JAバンク北海道は、地域貢献活動の一環として、野球観戦を通じて子供達に夢や希望を持つてもらうことを目的に、「ファイターズ・ドリームシート」に協賛し、今シーズンは福祉団体を通じて1,200名余りの子供達を招待しました。

「初めて野球の試合を見て楽しかったです。」「声がかかるほど応援しました。」等の感想をいただき、多くの子供達に楽しんでいただきました。



ホクレン



JAとホクレンは労働力確保が深刻になりつつある生産現場と、障がい者の社会参加を希求する福祉側とのマッチングを目指す農福連携研修会を昨年12月、札幌市内のホクレンビルで開催しました。大学研究者や実際に障がい者を雇用している生産者・JAの他、北海道庁職員ら70人余りが参加。グループディスカッションでは農福連携の実現に向けた課題と、今後の可能性などについて積極的な意見交換が行われました。



JA共済連北海道



JA共済では、「子ども共済」資料請求キャンペーンを実施しております。Webで「子ども共済」の資料をご請求いただいた方に、『JA共済オリジナル アンパンマンお食事エプロン』をプレゼントしております。キャンペーンは平成31年3月20日(水)までで、先着60,000名様となっております。

この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお願いしております！



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介、各団体の詳しい内容はWEBサイトをご覧ください。

◎農業・食料ほんとうの話……

鈴木宣弘 東京大学大学院教授

食料自給率を死語にするのは、誤っている

農を守らない日本

日本の農家の所得のうち補助金の占める割合は三割程度なのに対して、EUの農業所得に占める補助金の割合は英仏が九〇％前後、スイスではほぼ一〇〇％と、日本は先進国で最も低い。「所得のほとんどが税金でまかなわれているのが産業といえるか」と思われるかもしれないが、命を守り、環境を守り、国土・国境を守っている産業を国民みんなで支えるのは欧米では当たり前なのである。それが当たり前でないのが日本である。

日本農業が過保護だから自給率が下がった、耕作放棄が増えた、高齢化が進

んだ、というのは間違いである。過保護なら、もつと所得が増えて生産が増えていくはずだ。逆に、米国は競争力があるから輸出国になっているのではない。コストは高くても、自給は当たり前、いかに増産して世界をコントロールするか、という徹底した食料戦略で輸出国になっている。つまり、一般に言われている「日本⇨過保護で衰退、欧米⇨競争で発展」というのは、むしろ逆である。

だから、日本の農業が過保護だからTPPなどのショック療法で競争にさらせば強くなつて輸出産業になるというのは、前提条件が間違っているから、そんなことをしたら、最後の砦まで失って、息の

根を止められてしまいかねない。早くに関税撤廃したトウモロコシ、大豆の自給率が、〇％、七％であることを直視する必要がある。

食料自給率を死語にしてはならない

我が国では、国家安全保障の要^{かぎ}としての食料の位置づけが甘い。一応、実現目標として掲げられたカロリーベースで四五％という数字はあるが、いまや三八％まで下がり、そこから上がる見込みも、上げる努力の気配も感じられず、食料自給率という言葉さえ、死語になったかのように使われなくなってきたことは、世界の流れに完全に逆行している。

我々は原発でも思い知らされた。目先のコストの安さに目を奪われて、いざという時の準備をしていなかったら、取り返しのつかないコストになる。食料がまさにそうである。普段のコストが少々高くて、オーストラリアや米国から輸入したほうが安いからといって国内生産をやめてしまったら、二〇〇八年の食料危機のときのように、お金があれば買えるのではなくて、輸出規制で、お金を出し



すずきのぶひろ

1958年三重県生まれ。東京大学農学部卒業後、農林水産省入省。農業総合研究所研究交流科長、九州大学教授などを経て、2006年より現職。専門は農業経済学。著書に『食の戦争～米国の罠に落ちる日本』（文春新書）、『ここが間違っている！日本の農業問題』（家の光協会）などがある。

ても売ってくれなくなったら、ハイチャファイリピンでコメが食べられなくなつて暴動が起きて死者が出たように、日本国民も飢えてしまう。

だから、そういう時に備えるためには、普段のコストが少々高くてもちゃんと自分の所で頑張っている人たちを支えていくことこそが、実は長期的にはコストが安いということを強く再認識すべきである。なのに、食料「自給力」があればよいと政府は言うが、その内容を見ると「いざ」というときには校庭にイモを植えて数年しのげばよい」という類の対策だから驚きだ。

安全保障の要としての食料・農林水産業政策

F35戦闘機を一〇五基、一・三兆円とか、米国の言いなりに武器を買い増すのが安全保障ではない。武器による安全保障ばかり言つて、食料の安全保障の視点が抜けているのは、安全保障の本質を理解していない。農業政策を農家保護政策に矮小化させてはいけない。食料・農林

水産業政策は、国民の命、環境・資源、地域、国土・国境を守る最大の安全保障政策だ。

高村光太郎は「食うものだけは自給したい。個人でも、国家でも、これなくして真の独立はない」と言ったが、「食を握られることは国民の命を握られ、国の独立を失うこと」だと肝に銘じて、国家安全保障確立戦略の中心を担う農林水産業政策を、政党の垣根を超え、省庁の垣根を超えた国家戦略予算として再構築すべきである。

国民が求めているのは、日米のオトモダチのために際限なく国益を差し出すことではなく、自分たちの命、環境、地域、国土を守る安全な食料を確保するために、国民それぞれが、どう応分の負担をして支えていくか、というビジョンとそのための包括的な政策体系の構築である。競争に対して、共助・共生的システムと組織（農協や漁協や生協）の役割の重要性、生産者と消費者の役割、政府によるセーフティネットの役割などを包括するビジョンが不可欠である。

するーライフ 2章

「0.5ミリのペンを走らせる～Ajuアスペルガー症候群…」

Aju（アジュ）と呼ばれる29歳は大阪生まれの女性アーティストである。描きたい風景は映像となって頭に残り0.5ミリのペンを走らせる。

録画しておいた2018年11月25日の早朝の番組に釘付けとなった。大阪の「アジア太平洋トレードセンター」をはじめ作品約20点が展示された展覧会が開催された。

彼女の作品は現在企業のポスターにも採用されている。Ajuは会場に顔を見せ、入場者へ感謝の言葉を掛けたいと思った。しかし、彼女にはそのことは難しすぎることであった。Ajuには医師からアスペルガー症候群の診断が告げられていた。人の顔を見て話すことが不得手で、長い間人との拘りに悩み続けていた。高校時代には劣等感の塊を感じ、授業中には集中力に欠け外部の音や景色にだけ心が動いた。遠くに見えるビルディングの窓の数を数えたりした。学校自体が地獄に思え、更に最悪なことも考えたりした。



ここまででは彼女は自分の隠された才能には気付かなかった。大学に進んで出会った女性教員がひとつの道を切開いた。「助けて」の夜の電話にも暖かく応えてくれた。「九州新幹線」のペン画を教員に見せた。最大の賛美の言葉を貰った。Ajuの才能を読見取ったのか、大学教員の彼女はその時スケッチブックを一冊手渡した。Ajuは最後のページまで書きたいという一心で「心の街並み」を書き続けた。そして甘えてその教員の家に転がり込んでしまった。大学卒業までの約束は今も続いている。Ajuの安住の地になった。

（せんせい）と彼女の母（母ちゃん）と呼び合う奇妙な下宿人生活が、Ajuを緻密な線描写アーティストに育て上げた。描画の手法が似ている作家には日本には1971年に没した放浪の画家「山下清」がいる。全国各地を精力的に歩いた彼は、色彩豊かな日本の原風景画を数多く残した。しかし彼の才能を開花させたのも、入園していた「八幡学園」の顧問医であった精神病理学者式場の存在がある。

Ajuや山下の特技に集中する能力は我々凡人を遥かに凌駕し、殺気立ったものすら感じる。Ajuも傾倒した山下清の作品に触れる機会が多いが、彼女の作品はまだ少ない。近代都市の描写に視線を向けた若い女性の感性が、間もなく正当な評価を受ける日がやって来るだろう。

パズル? 頭の体操



タテのカギ

- 1 片目だけパチンとつむります
- 4 夜空できらめきます
- 6 不満がたまるとこぼしてしまうことも
- 7 ショベルカーやブルドーザーなどのこと
- 9 ホエールはクジラ、ドルフィンは――
- 11 師匠に似て学ぶ立場です
- 12 丸木を組んで作る舟
- 14 平和の象徴とされる鳥
- 15 コンビニで免許証の――を取った
- 17 機嫌がいいときに漏れる「フンファン」
- 19 なめて味わうお菓子
- 20 アイロンをかけてのびします
- 21 ――先は開、慎重に進みたいものです

ヨコのカギ

- 1 ホー、ホケキョ!
- 2 わずかな希望のことを――の望みともいいいます
- 3 当たりか、外れかな
- 4 カギが増殖するために飛ばします
- 5 春・夏・秋・冬と回ります
- 8 長湯をして――のように真っ赤になった
- 10 受験生に問題用紙と――用紙が配られた
- 13 しょうゆ、みそ、塩、豚骨……色んな味があります
- 14 開店祝いのお金を付けた物が店先にずらりと並ぶことも
- 16 耳たぶに穴を開けて着けます
- 17 2本で1膳と数えます
- 18 祝いの席では尾頭付きが用意されることもあります

パズル? 頭の体操

先月号の
答え



解答 A B C D
マメ マキ

組合員のうごき

(平成31年1月24日現在)
 正組合員戸数 366戸
 総組合員数 2,445名
 正組合員数 552名
 うち団体数 34団体
 准組合員数 1,893名
 うち団体数 66団体

- 1日 上川町農業団体合同懇談会
初牛祈禱法要
- 4日 愛別町畜産振興基金定期総会
留萌上川地区JA役員研修会(旭川)
JA女性部合同宿泊研修(東神楽)
- 5日 留萌上川地区合同監事協議会冬期研修会(60日 旭川)
胡瓜栽培講習会
- 6日 上川留萌地区JA役員研修会
上川地区青果物取扱対策会議(旭川)
- 12日 第5回上川地区農協農産物対策委員会(旭川)
第7回上川地区農協米対策委員会(旭川)
第7回上川地区農協組合長会議(旭川)
第40回愛別町農業青色申告会定期総会
上川町畑作園芸振興会役員会
南川講習会
- 14日 愛別町ヤブ振興協議会役員会
JA青年部役員会
企画会議
- 18日 水稲畑作講習会
第24回愛別町米麦生産振興協議会定期総会
企画会議
- 20日 第1回定例理事会
第1回監事会
地区別組合長会議(旭川)
愛農機連定期総会
- 22日 地酒(ふし)を愛するタペ
上川管内中央部農協自動車展示会
(23日 旭川)
JA青年部定期総会
JA女性部上川支部定期総会
合同委員会
- 26日 282726日

第12回定例理事会

平成31年1月24日開催

- 報告事項
- 1 組合員の脱退について
9名の脱退について報告した。
- 2 平成30年度草地事業実績報告について
3件の事業内容を報告した。
- 3 平成31年度クミカン資金(仮)供給限度額の設定について
クミカン運用に伴って仮設定について報告した。
- 4 内部審査協議会内部審査実施報告について
購買部(資材・農機燃料)で実施された監査内容を報告した。
- 5 平成30年度資産評価委員会の報告について
1月24日開催の委員会内容を報告した。
- 議事
- 1 出資持分の譲渡について
4件の譲渡について承認された。
- 2 組合員の加入報告並びに組合員資格について
2件の加入を報告し、資格について承認された。
- 3 平成31年度理事に対するクミカン資金(仮)供給限度額の設定について
理事のクミカン運用に伴って仮設定について内容を説明し、13件の利用が承認された。
- 4 役員報酬審議委員の選任について
10名の報酬審議委員について承認された。
- 5 平成31年度内部監査計画及び経営定期点検実施計画の設定について
内部監査並びに経営定期点検の実施計画内容を説明し、承認された。
- 6 全銀システム稼働時間拡大にかかる振込手数料の設定について
全銀システム振込手数料の設定内容を説明し、承認された。
- 7 平成30年度資産評価額の設定について
資産評価委員会結果に基づき、評価額の設定が承認された。

変わるJA 広がる地域のきずな

変わるJA 広がる地域のきずな

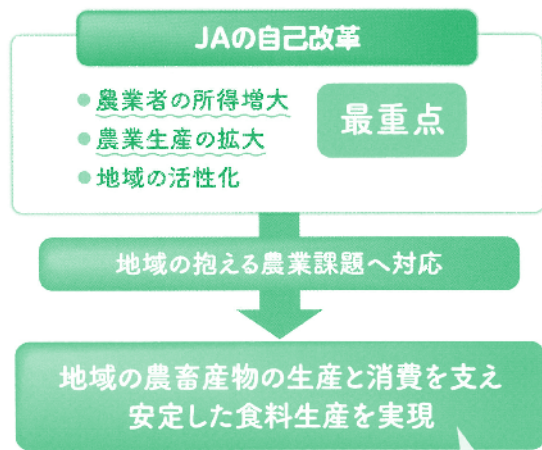
監修=広島大学 助教 小林元

Q. JAの自己改革は地域社会とどんな関わりがあるの?

A. 地域の生産と消費を後押しして、食料の生産基盤を支えます。

JAの自己改革では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を目指しています。農業者の平均年齢は66.7歳(2017年)となり、国内の農業就業人口が年間10万人規模で減少する中、農業の担い手の確保が難しくなっています。また、食料自給率は主要先進国で最も低い38%(2017年度、カロリーベース)まで落ち込みました。JAは自己改革を通じて、生産コストの引き下げや有利販売の拡大、次世代の担い手の育成、地域の活性化などにより、地域の農畜産物の生産と消費を支えていきます。日本の食料の生産基盤を守る上でも、大切な取り組みです。

近年は、各地で豪雪や豪雨、地震などの災害が相次ぎ、農業現場も大きな被害を受けました。JAは、災害発生時においても、被害状況の調査や生産資材の確保、農地、農業施設の復旧など、被災地の一刻も早い再生に向けた支援を行っています。いかなる時でも地域の食料生産を守り、発展させていくために、これからもJAグループで力を合わせて自己改革を進めていきます。



災害など有事の際には...
 ●被害状況の速やかな把握
 ●生産資材の確保
 ●農地・農業施設の復旧などをサポート

耕そう、大地と地域のみらい。



レシピ1

春キャベツのペペロンチーノ

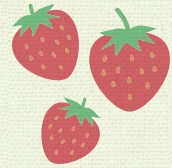
材料(1人分)	作り方
パスタ…80g(たっぷりの水に1晩浸しておく@6時間以上)	(1)ハマグリ、水、白ワインを小鍋に入れ火にかけてスープを取る。
ハマグリ(アサリ)…100g	(2)フライパンにオリーブ油をひき、アンチョビ、ニンニク、輪切りトウガラシを入れ香りを移し、春キャベツ、ダイコン、小松菜、ジャガイモを炒める。
水…3/4カップ	(3)鍋にたっぷりのお湯を沸かし、水戻したパスタを1分ゆでる。
白ワイン…大きじ1	(4) (1)と(3)を(2)に入れ、春キャベツなど具材と絡め、塩、こしょう、しょうゆで味を調え出来上がり。
春キャベツ…100g	
小松菜…1/5束	
ダイコン(イチョウ切り)…4枚	
ゆでたジャガイモ…1/2個	
輪切りトウガラシ…適宜	
アンチョビフィレ…2枚	
ニンニク…1片分(つぶしてみじん切り)	
オリーブ油…大きじ1	
塩・こしょう・しょうゆ…適宜	



今月の朝食に…

レシピ2 イチゴに豆腐ソース

材料(1人分)	作り方
イチゴ…大2個	(1)ミキサーにソースの材料を全て入れ、滑らかになるまで攪拌(かくはん)する。
ミント…適宜	
粗びききな粉…適宜(砕いたクルミでも可)	
ソース	(2)器にソースをひき、半分に切ったイチゴをのせ、ミントきな粉をあしらひ出来上がり。
絹ごし豆腐(水切りしたもの)…半丁	
砂糖…大きじ1	
練りごま…小さじ2	
生クリーム…大きじ1	
塩…一つまみ	
薄口しょうゆ…少々	



公 告

上川中央農業協同組合第11回通常総会を次の日程により開催いたします。

- 開催日時 平成31年4月4日(木)
受付 午前8時30分
- 開催場所 上川郡愛別町本町
愛別町総合センター

※出席対象は、当組合の組合員(正・准組合員)です。
※議決権は、正組合員のみとなっております。

営業日 / 営業時間 変更のお知らせ

○ホクレン愛別給油所
平日・土曜 8:00~18:30

期間：平成31年4月1日~9月30日

日曜・祝日 8:30~17:30

期間：平成31年4月1日~10月31日

○ホクレン上川給油所
平日・土曜 8:00~19:00
日曜・祝日 8:00~18:00

期間：平成31年4月1日~10月31日

○資材店舗(本所・支所)・農機センター
土曜 8:30~12:30 営業

期間：平成31年3月2日~



購読のお勧め

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

読んで役に立つ! おもしろい! 紙面を紹介します。

●購読のお申し込みについて
1ヶ月 2,520円(税込み)

お申込み先:地域振興係(本所:Tel6-5315・支所Tel2-1113)